

## 第 1 回 第 2 期西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会会議録

会議の名称	第 1 回 第 2 期西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会
開催日時	令和 5 年 9 月 22 日（金） 10:00～12:00
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎 4 階会議室 3
出席者	(委員) 入井委員、加藤委員、鈴木委員、都築委員、瀧島委員、小野委員、 青木委員、長谷川委員、濱崎委員 (事務局) 西東京市社会教育課 吉田課長、森主係長、亀田学芸員、川野主任 ランドブレイン株式会社 宮脇、宇井、花井
欠席者	古山委員、矢野委員
議題	1 開会 2 委嘱式 3 委員自己紹介 4 座長及び副座長の選出 5 協議・確認事項 1 計画策定の枠組みについて (1) 第 2 期西東京市文化財保存・活用計画検討の流れ (2) 全体骨子の確認 (第 1 期計画からのみなおし点など) (3) 計画策定の要旨共有 (目的/現況/策定の方向性) 6 協議・確認事項 2 市民アンケートについて 7 その他
会議資料	資料 1 第 2 期西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会設置要領 資料 2 第 2 期西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会委員名簿 資料 3 第 2 期西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会傍聴について 資料 4 第 2 期西東京市文化財保存・活用計画検討の流れ 資料 5 西東京市で目指す文化財の保存と活用の方向性について 資料 6 西東京に文化財保存・活用計画の基本的な考え方 資料 7 市民意向調査票 小学校 5 年生・中学校 3 年生 (案) 資料 8 市民意向調査票 15 歳以上市民 (案) その他 西東京市文化財保存・活用計画 (平成 28 年度から令和 5 年度) 西東京市文化財マップ 西東京市の指定文化財ハンドブック 国史跡下野谷遺跡リーフレット 2 種 したのやムラの家族の話 西東京市郷土資料室パンフレット 民族学博物館

会議内容	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
<p>1 開会</p> <p>2 委嘱式</p> <p>3 委員自己紹介</p> <p>4 座長及び副座長の選出</p> <p>5 協議・確認事項1</p> <p>○座長： 協議事項（1）第2期西東京市文化財保存・活用計画検討の流れ、（2）全体骨子の確認について説明をお願いします。</p> <p>○事務局： 【資料1により説明】</p> <p>○座長： ご意見、ご質問はあるか。 東京都の文化財保存活用大綱の策定について、見通しはあるのか。</p> <p>○委員： 今年度か来年度には大綱はできるだろうと思われる。日本全体を見ても地域計画の大綱ができていない県は東京、長野、京都を含め4か所。他都道府県はすべてつくられている。都内についてはほとんど地域計画がつくられていないので、そろそろ東京都の大綱ができる見込みが立ってきて、動き出したのではないか。</p> <p>○委員 計画の冊子の分量はどのくらいか。</p> <p>○事務局： 第1期と同等を想定している。ほかに概要版を作成予定である。体裁についてもご意見を頂戴できればと思う。他課の計画と異なり、文化財保存・活用計画の特徴として、市民に向けた文化財の冊子となっている。文化財の概要なども中に含まれてくる。策定の過程も市民に入っていただくことが、計画をつくる上でのポイントとなっている。過程で文化財を知ってもらい、興味を持ってもらう。文化財の説明は、第1期計画で使用したのものも利用していく。</p> <p>○委員：</p>	

第1章の検討について、第1期計画で産業、民俗など抜けている部分を補完しないといけないと考える。

○座長：

地域計画と連動しなくてはいけない。地域との結び付きが必要。地域の意見が入る仕組みが必要と考える。

○委員：

ワークショップやヒアリングがあるため、どのように地域の声を反映させるかの肝になるかと思う。微力ながら関わらせていただく。

○委員：

市内で4つの地域ネットワークができています。特にフラワーネットは地域の歴史を学ぶなど積極的に活動している。このような地域ネットワークの意見を聞くことは重要と考える。

○委員：

歴史文化基本構想など、計画には将来像がある。西東京市として地域の特性が反映され、現状認識をし、どう将来像を共有していくかが次の仕掛けと考える。

○座長：

次に、協議事項（3）計画策定の要旨共有について事務局より説明をお願いします。

○事務局：

協議事項（3）計画策定の要旨共有について、【資料2により説明】

○座長：

ご意見あるか。

博物館について、下野谷遺跡のガイダンス施設をどう扱うか。また、国指定文化財であり、展示物が目に見える形で、誰もが見られることが非常に重要。恐らく一般の人にとっては、文化財の展示があることでより理解できると考える。展示をどう取り組んでいくか、地域博物館と役割をどう振り分けていくか、難しい問題もあると思うが、しっかり取り組んでほしい。

○委員：

市民の方に周知する方法、PRが不足していると考えため、皆さんで考えていけたらと思う。イベントが年1回でもできればよい。

○座長

市民が親しむ機会がどれだけあるかが大事。市民同士で交流できる場、市民向けの講演会などわかりやすく紹介する機会が足りないと感じる。

○委員：

下野谷遺跡は行っている。市で行っている「アイ（藍染の藍）」もいい効果がでていくかと思う。ただ人員も含めキャパシティを超えているようなところがあるので、もう少し精査して、計画に入れて

いければよい。ボランティアをまとめる、核となる場がない。イベントだけでなく、ガイドンス施設のようなプラスアルファで考えて共有できる恒常的な場があるとよい。削るところは削る、委託できるところは委託するというように精査していきたい。

○委員：

文化芸術の定義が広がったとのことで、ひばりが丘団地など、団地の歴史として積み重なっている。市としてどう位置付けていくのかも検討できるか。文化財的な扱いもできるのかどうか。

○座長：

文化財まではいかなくても、文化として、西東京市民としての意識が把握できれば、今後検討できる。

○委員：

下野谷遺跡を特化するのには、一つの大きなこと。遺跡を掘り返すことはできない。遺跡を上から覗けるようにできたらよい。現実的には難しいが、目の当たりに見られれば、市民にも身近に感じてもらえるのではないか。

コロナ以前に、郷土資料室が主催の紙芝居の上演など事業をやっている。コロナ禍で部屋の使用などが厳しくなった。資料室が持っている資源は非常に重要である。きちんと位置づけし、活用をしっかりできればよいと思う。図書館についても連携を深めて、関係を構築していければ、西東京市の文化、文化財を市民にきちんと伝えられるのではないかと考える。

○委員：

第1期計画の31、32ページなど、縄文時代から一気に現代になっており、その間の歴史について抜けているため、歴史をピックアップするだけでなく、産業も含め、まとめていただきたい。

○委員：

要素出しで終わってしまう。地域博物館という要素が入っていることは、将来像は地域博物館のミッションである。また、西東京市の市民活動は特筆すべきものであり、それを地域博物館に集約するなど、バラバラの要素を次の段階にもっていくことがポイントである。

他市の多摩ニュータウンの歴史についても、今起こっている文化と歴史が続いているとして、文化財と捉えることはできる。

○委員：

文化財は、市民一般が関心のないことにならないよう、昔から現代は続いているという身近に感じられる要素を文化財のある場だけでなく、商店街や公園など地域に散りばめられるかが大事である。新規の大掛かりなモノや施設を作るのは難しいことを踏まえても、文化財を散りばめられる場所を探すというのもアプローチとしておもしろいのではないか。

○委員：

若者参画などのキーワードがあったが、受け身ではなく主体的に参画、活動してもらうことが大事であるため、実際の活動の場を用意していくのはよいと思う。自分に関わって行くと我が事として関わってくれる。市として活動を推進するのも大事であり、地域の人たちが地域の若者を含めて一緒に活動することも大切である。地域人材として、コーディネイト側にまわる仕組みもできたらよい。

○座長：

次に市民アンケートについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局：

【資料 3、4 により説明】

○座長：

意見はあるか。

○委員：

前は 31.3%の回答率とのことだが、年齢に関係なく、2,000 人の無作為抽出か。小中学生アンケート設問 1-2 について、総合計画にも似たようなアンケートがあったが、文化財と関係なく好き嫌いになりそうに考える。理由も簡単にかけるとよい。

○事務局：

小中学生アンケートがあるため、年齢に関わらず 2,000 人抽出予定である。

設問 1-2 はクロス集計できるように考えているが、理由について追記は検討したい。

○委員：

15 歳以上無作為であるが、若者の年代が抜け落ちるのは気になる。大学などに狙い撃ちをして、参考として意見を聞くことは一つの方法になると考える。

市民アンケートの設問 2-7 は、子どもの設問 2-7 と同じニュアンスでよいのではないか。

設問 4-3 について、建物としての博物館というより、博物館に限らず、拠点をおくなど地域博物館のニュアンスがあるといいのではないか。

○委員：

文化財のイメージを押し込めているため、団地や武蔵野鉄道など今につながる近現代のトピックがあるとよい。また、文化財保護だけでなく、活用の視点も必要である。ユネスコの無形文化遺産はそのまま残すことをよしとしていない。現代に合わせて進化させていくことが求められている。かてうどんなどを自分たちで作るなど文化創造、活性化していく意識に向かうよう、啓蒙していくことが必要と考える。

○委員：

継承と創造はよい考え。博物館はやわらかい視点で質問できるとよい。施設というイメージに引きずられず、博物館を作るという計画に閉じ込めないよう、代わる表現を考えていただきたい。博物館は欲しいが、どのようなコンセンサスを経て博物館をつくるのが重要である。

○委員：

文化創造は公民館などが主に担ってきた。時代の変遷で公民館などの役割も変わってきているが、文化財の拠点になっていく。その先に博物館もイメージできるようなものがよい。

○委員：

拠点がしっかりしているという前提で、どう計画書に落とし込んでいくかが大事である。

○座長：

箱にとらわれない情報発信を担うような新しい地域博物館があつていいのではないか。可能性があれば事前に意見を聞いて、新しい博物館像を定義できればよい。アンケートで聞いてもいいのではないか。

○事務局：

博物館という箱を作るというイメージになってしまう表現の変更を、検討したい。

○委員：

対面だと細かいニュアンスまで把握できるが、アンケートだと難しい。

○事務局：

ワークショップの実施内容にも参考にさせていただく。地域博物館という箱に固執しない博物館のコンセプトが今回の計画のコンセプトともなるのではないかと考える。

○座長：

議題のその他について説明をお願いします。

○事務局：

今後の懇談会についてご都合をお伺いしたい。

○委員：

早い段階で、ある程度日程がわかっているとよい。

○事務局：

なるべく早めに日程を調整させていただきたい。

《閉会》